

**【執着調教】幼馴染の過保護な『お世話』
～三大欲求を完全コントロール。彼なしでは生きられない一生の洗脳～**

サンプル（一部抜粋）

「...またベッドから一歩も動いてないんだな。
ごはんは食べた？」

「食べてないの？
...ったく、しょうがないな。」

「幼馴染の俺がいなかったら、何もできないんだから。
家の鍵、もらっておいて正解だったよ。
ごはん持ってきたから、こっちにおいで。」

（ぎしっとベッドに膝を乗せる音）

「...ん？ どうしたの？
（優しく）いいから、抱っこして連れて行ってあげる。
俺の首に、ちゃんとしがみついて？」

「...自分で歩けるって...？ううん、無理だよ。
いつもすぐに眩暈でふらふらするくせに。心配で見られないから、全部俺に任せて。」

「...もう何年も、俺がお世話してきたんだよ。
今更、何を恥ずかしがってるの？
俺の事はただの過保護な幼馴染として、見てるんだろ？」

「だよな？じゃあ、何も恥ずかしくないよ。」

（ゆっくりと肌を撫で、服を強引に脱がせる音）

「抵抗なんて無意味な事はやめて、全部俺に任せて。」

「...風呂場だから、声が響くね。
そんな可愛い声を出して、ご近所さんに聞かれちゃうよ？」

（楽しそうに笑いながら、クリトリスをくちゅくちゅ弄る音）

「...ほら、力が抜けてきたでしょ？
俺にしがみついてて。
中也綺麗にしてあげるから。」

（手をシャワーで洗い流し、指を膣にぐちゅっと入れる音）

「あーあ。中、こんなに熱くして。
乳首とクリトリスで興奮しちゃったんだ？」